

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立喜佐方小学校

1 自己評価書

教育目標		笑顔で登校 満足して下校する児童を育てる					
基本方針		1 自ら学ぶ意欲を持った児童を育成する。 2 心身ともに健康で、根気強く取り組む児童を育成する。 3 思いやりと優しさを持った児童を育成する。					
本年度重点目標		1 地域とともにある特色ある学校づくりの推進 2 確かな学力の定着と向上 3 健やかな体を育てる教育の推進 4 豊かな心を育てる教育活動の推進 5 互いの人権を尊重する教育の推進と特別支援教育の充実 6 教職員の資質・能力の向上と働き方改革					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C A		B
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C A	B	
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A A		B
				③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C D B	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B		C
			(成果と課題) ○ICT支援員のもとEILSの研修を受けたおかげで、喜佐方タイムや家庭学習にEILSを活用することができ、習熟が進んだ。 ○新刊図書に関する掲示をすることで、その本を手にとるなど、児童が本に興味を示す様子が伺えた。 ○朝掃除の時間を読書に充てたため、学校では集中して読書する時間が確保できた。 ●保護者の活字離れが進み、家庭での読書の啓発には限界がある。				
	(改善策等) ・多様な本を紹介する機会を作る。(児童発信・委員会発信・教師発信) ・11月の月目標「本をたくさん読もう」に合わせて、学級で具体的な目標を設定したり、委員会活動を計画的に組み込んだりして、読書に対する関心が高められるような取組をする。						
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B A	B
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	C C A	B
				いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A B A	
					③	基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	B A	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	C A		
(成果と課題) ○不登校傾向がある児童については、家庭と連携し早期対応ができた。また、配慮を要する児童については、関係機関等と連携を図り、教育相談や情報交換ができた。 ○不登校傾向の兆候に気付いた時に、校内で早期に情報共有し、対応策を検討することができた。 ●少人数なので、一人一人の様子は把握しやすいが、一対一での教育相談の機会が、少なかった。 ●基本的生活習慣について、特別に指導時間を設けることは難しかった。							
(改善策等) ・これまでの教育相談に加え3学期にも時間を取り、児童が安心して進級できるよう、次年度への引継ぎを確実に行う。 ・児童の気になる行動は、教員の共通意識の下、いつでも、どこでも、誰にでもきちんと指導していく。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート	C	C	
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B		
	②	働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C	
				・教師アンケート	C	C	
	③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
	(成果と課題) ○学期末特別校時のおかげで、円滑に学期末事務処理を進めることができた。 ○SSSを有効的に活用し、作業の時間削減につながった。 ●過労死ラインを超える勤務時間を反省した。						
	(改善策等) ・働き方改革につながる案を教職員から募り、全員で検討し、個人の働き方についても見直す機会を設ける。 ・校時表を見直し、学校活動が円滑に進むよう工夫するとともに、児童・教職員にとって、ゆとりと必要な時間の確保ができるようにする。						
	評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
	地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	A
					・教師アンケート	B	
学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。				・保護者アンケート	A		
				・地域アンケート	A		
②		情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・地域アンケート	A		
③		来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・地域アンケート	A		
(成果と課題) ○学校と地域の連携が図れており、よりよい関係が築けている。 ○ホームページや学級通信で情報発信し、学校の様子を伝えることができた。							
(改善策等) ・第3回学校運営協議会には代表児童も参加し、学校生活アンケートの結果を基に、課題について意見交換の機会を持つ。 ・今後も、ホームページの更新や学級通信の発行を継続して行い、保護者や地域との連携を図るきっかけとしていく。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満